

熊本雜憶 五首

松本源太郎

深巷棟花儒士宅崇塘雲樹子規天回思此境還惆悵病在城中恰一年  
綠陰城郭送芳菲新燕尋巢旅雁歸記取肥州廓前路紛々柳絮點人衣  
園中泉石幾回踏湖上釣綸時一拋爲是盤旋愜幽意引人詩夢到東郊  
白河春水帶灰流到龍南深可涸烟燄漲天雷奮地阿蘇山下是曾遊  
郊原秋色夕陽中櫨葉紅於楓葉紅最憶生徒行習戰擁旗同到綠河東

第五高等學校 開校三十週年祝賀會に侍りて

前教授 園 哲 雄

今様

我が大君の御蔭もて  
いとご榮をみそとせと  
花は櫻木人は此の  
朝廷につくす眞心は

學び所の立ちしより  
祝ふ今日こそめでたけれ  
武夫原に學びつつ  
七たび生れし甲斐ぞある

名だたる阿蘇は東なり  
ここに學びてあめつちの  
學ぶ此身のたつ田山  
み稜威は長くしら川の

音にきくちは北にあり  
響む響をざりざりに  
雲ぬに登る勢の  
流と千代に八千代經む